

- 問1 東京都新宿区の統計では、昼夜間人口比率が200%を超えており、地方中核都市である栃木県宇都宮市の統計でも、昼夜間人口比率が100%を上回る結果が出ています。これらの数値が示す各都市の状況として、最も適切な説明はどれですか。 (2022年 兵庫県公立入試 類似)
1. 新宿区は夜間人口が昼間人口を上回る住宅都市であるが、宇都宮市は他市区町村へ通勤する人の割合が半数を超えている。
 2. 新宿区は都心部として周辺から極めて多くの通勤者が流入しており、宇都宮市も周辺地域に対する都市機能の集積により流入超過となっている。
 3. 新宿区は他市区町村へ通勤する人の割合が周辺自治体よりも高く、宇都宮市は周辺地域へ通勤する人が流入する人を上回っている。
 4. 新宿区と宇都宮市はどちらも、定住する夜間人口が急増した結果、昼間人口と夜間人口の差がほとんどなくなっている。
- 問2 日本の自然環境に関する文章中の空欄（①）・（②）にあてはまる語句の組み合わせとして最も適切なものを、次のうちから1つ選びなさい。「関東平野を流れる（①）は、日本最大の流域面積をもつ河川である。冬の関東地方では、山脈を越えて吹く（②）からの乾燥した季節風の影響で、晴天の日が多くなる。」 (2026年 徳島県公立入試 類似)
1. ① 利根川 ② 北西
 2. ① 信濃川 ② 南東
 3. ① 信濃川 ② 北西
 4. ① 利根川 ② 南東
- 問3 茨城県は野菜の産出額が全国でもトップクラスですが、その背景として、東京などの大都市に近い立地を活かし、新鮮さが求められる農産物を生産して速やかに出荷する農業が行われています。このような農業形態を何といいますか。 (2019年 群馬県公立入試 類似)
1. 抑制栽培
 2. 近郊農業
 3. 適地適作
 4. 促成栽培
- 問4 世界文化遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」を構成する「田島弥平旧宅」の説明として、最も適切なものはどれか。 (2025年 北海道公立入試 類似)
1. 銀の採掘から搬出までを行うために、山間部に築かれた鉱山と関連する施設
 2. 官営の模範工場として、西洋の機械を導入し生糸の大量生産を可能にした施設
 3. 積雪に耐えるための独特な屋根構造を持ち、地域の共同体で維持されてきた集落
 4. 通風をよくする工夫を凝らした建物で、近代的な養蚕技術の開発・普及に貢献した施設
- 問5 東京23区の人口動態について、神奈川県、埼玉県、千葉県などの周辺県から多くの人々が通勤・通学のために移動する状況を踏まえ、昼間人口と夜間人口の関係を説明したものとして適切なものはどれですか。 (2015年 大分県公立入試 類似)
1. 練馬区や江戸川区といった住宅地が多い周辺の区では、都心部へ向かう人々よりも都心部から来る人々の方が多いため、昼間人口が夜間人口を上回る。
 2. オフィスや官公庁が集中する千代田区や中央区では、周辺地域から流入する人々によって昼間人口が夜間人口を大きく上回る。
 3. 近年の都心部への住み替えが進んだ結果、千代田区などの都心部では居住者数が急増し、夜間人口が昼間人口を上回る逆転現象が起きている。
 4. 東京23区は日本の中心地であるため、すべての区において周辺県から流入する人々が居住者を上回り、昼間人口の方が多くなっている。
- 問6 地方別の農業産出額の構成を示した統計において、野菜の占める割合が約40%と極めて高く、花きも約8%に達している一方、米の割合が10%台にとどまっている地方があります。このように、大都市という巨大な消費地に近い利点を生かし、新鮮な野菜や花などを生産して出荷する農業の形態を何といいますか。 (2019年 奈良県公立入試 類似)
1. 促成栽培
 2. 適地適作
 3. 抑制栽培
 4. 近郊農業
- 問7 かつて果樹園が広がっていた「鍋島農場」が、現在のように博物館や学校、多くの住宅が立ち並び「松濤」という地域へと姿を変えた背景にある、都市の機能が拡大し土地利用が変化する現象を何と呼びますか。 (2017年 佐賀県公立入試 類似)
1. 過疎化
 2. 工業化
 3. 情報化
 4. 都市化
- 問8 2018年の統計において、東京国際空港（羽田）の年間旅客数は約8,000万人、成田国際空港は約4,000万人を記録し、これら東京圏の2つの空港を合わせた利用者数は一億二千万人を突破しています。この状況について説明した文として、最も適切なものはどれですか。 (2020年 奈良県公立入試 類似)
1. 東京国際空港の旅客数は成田国際空港の約2倍であるが、両空港とも旅客数より貨物輸送量の方が多くことが特徴である。
 2. 格安航空会社（LCC）の利用が減少したことで、成田国際空港の旅客数は東京国際空港に比べて大幅に少なくなっている。
 3. 成田国際空港が国内線の中心、東京国際空港が国際線の中心として機能しており、両者を合わせても利用者数は一億人に満たない。
 4. 成田国際空港と東京国際空港は、国際線と国内線の拠点を分担しながら、世界有数の規模の旅客数を支えている。
- 問9 千葉県の産業や人口の特色について述べた文として、統計的な背景から判断して最も適切なものを次から選びなさい。 (2020年 千葉県公立入試 類似)
1. 観光業が産業の中心であるため第3次産業の割合は非常に高いが、製造品出荷額や農業産出額は全国平均に及ばない。
 2. 日本海側の気候を活かした稲作が盛んで農業産出額は高いが、人口および第3次産業の割合は全国平均を下回っている。
 3. 古くからの文化財が多く観光客は多いが、大規模な工業地域を持たないため、製造品出荷額は全国平均を下回る。
 4. 人口が多く、第3次産業の割合が高いとともに、農業産出額と製造品出荷額がともに全国平均を上回っている。
- 問10 日本の空港間における旅客輸送数の統計において、新千歳空港や那覇空港、大阪国際空港など全国各地の主要空港と結ばれる航空路線のうち、圧倒的に大きな輸送数を示し、日本の国内航空網の最大の拠点となっている空港の名称として正しいものはどれですか。 (2022年 香川県公立入試 類似)
1. 中部国際空港
 2. 東京国際空港（羽田空港）
 3. 関西国際空港
 4. 成田国際空港
- 問11 東京都心部などの大都市の中心地域において、昼間の人口が、その地域に居住している夜間の人口を大きく上回る現象がみられます。この現象が起こる主な理由として、最も適切な説明を選びなさい。 (2018年 山形県公立入試 類似)
1. 周辺の住宅地域から、多くの人々が仕事や学びのために通勤・通学してくるため。
 2. 都心部の再開発により、大規模なマンションが建設されて居住人口が急増したため。
 3. 観光客の増加に伴い、夜間に滞在する宿泊施設が都心部に集中しているため。
 4. 都市の過密化を避けるために、工場や大学が都心から郊外へと移転したため。
- 問12 群馬県の高原地帯で行われている「抑制栽培」について、農家がこの栽培方法を選択している経済的な理由として最も適切な説明を選択してください。 (2022年 福島県公立入試 類似)
1. 九州地方などの暖かい地域と出荷時期を重ねることで、市場でのシェアを競い合うため。
 2. 大消費地である東京から遠いため、輸送コストを削減するために収穫時期を遅らせる必要があるから。
 3. 平地での出荷が少なくなる夏から秋にかけて出荷することで、高い価格で販売できるから。
 4. 冬の寒さが厳しいため、ビニールハウスを利用して成長を早める促成栽培を行う必要があるから。

答え合わせ・解説

問1	答え 2 新宿区は都心部として周辺から極めて多くの通勤者が流入しており、宇都宮市も周辺地域に対する都市機能の集積により流入超過となっている。	昼夜間人口比率が100%を超えているということは、その地域の昼間人口が夜間人口よりも多いことを意味します。東京都心の新宿区は、オフィスや商業施設が集中しているため、周辺の住宅地から膨大な通勤者・通学者が流入し、比率が200%を超える極端な値を示します。一方、地方中核都市である宇都宮市も、周辺の市町村に対して行政、商業、産業の中心的な役割を果たしているため、周辺地域からの通勤・通学者が流入し、昼間人口が夜間人口を上回る構造になっています。
問2	答え 1 ① 利根川 ② 北西	関東地方を流れる利根川は、日本で最も広い流域面積を持つ河川です。冬になるとユーラシア大陸側から北西の季節風が吹き、山脈で水分を落としたあと乾燥した風となって関東地方に吹き下ろします。
問3	答え 2 近郊農業	大都市の周辺で、交通網の発達を利用して野菜や花きなどを生産し、鮮度が高い状態で消費地へ届ける農業を近郊農業と呼びます。茨城県は、常磐自動車道などの高速道路網を活用することで、収穫から短時間で市場へ輸送できる地理的優位性を持っており、これが野菜や畜産の高い産出額を支える要因となっています。
問4	答え 4 通風をよくする工夫を凝らした建物で、近代的な養蚕技術の開発・普及に貢献した施設	田島弥平はカイコを健康に育てるための換気技術を確立し、そのための建築様式を広めました。この養蚕の技術革新が、後の富岡製糸場での大規模な製糸活動を支える重要な要素となりました。
問5	答え 2 オフィスや官公庁が集中する千代田区や中央区では、周辺地域から流入する人々によって昼間人口が夜間人口を大きく上回る。	東京都心部（千代田区、中央区、港区など）はオフィス街や官公庁、商業施設が集中しているため、神奈川、埼玉、千葉などの隣接する県や、都内の周辺部から多くの通勤・通学者が流入します。そのため、居住者数を示す「夜間人口」に比べて、昼間に滞在している「昼間人口」が極端に多くなる傾向があります。特に千代田区では、昼間人口が夜間人口の17倍を超えるなど、その差が顕著です。
問6	答え 4 近郊農業	東京都や横浜市などの大消費地を抱える関東地方では、輸送時間を短縮できる利点を生かし、鮮度が重要視される野菜や花きの生産に力を入れています。この農業形態は「近郊農業」と呼ばれ、他の地方に比べて野菜の産出額割合が非常に高いことが統計上の大きな特徴となっています。対して、米の割合が低いのは、農地が宅地化されたり、より収益性の高い野菜栽培へ転換されたりしたためです。
問7	答え 4 都市化	都市の周辺部において、人口の増加や経済活動の拡大に伴い、農地や森林が住宅地や文教地区、商業地などへとつくり替えられる現象を都市化と呼びます。松濤の事例は、かつての広大な農場が都心部の発展に合わせて高級住宅地や美術館などが並ぶ地域へと変容した、土地利用の変化の典型的な具体例として知られています。
問8	答え 4 成田国際空港と東京国際空港は、国際線と国内線の拠点を分担しながら、世界有数の規模の旅客数を支えている。	東京国際空港（羽田）は国内線の基幹路線を、成田国際空港は国際線の多くを担う形で役割を分担してきましたが、近年は東京国際空港の国際線増便なども進んでいます。これら2空港を合わせた年間旅客数は一億二千万人を超え、ロンドンやニューヨークと並ぶ世界最高水準の航空需要を抱えています。貨物量が旅客数を上回るという事実はなく、旅客輸送が中心です。
問9	答え 4 人口が多く、第3次産業の割合が高いとともに、農業産出額と製造品出荷額がともに全国平均を上回っている。	千葉県は首都圏の一角として膨大な人口を抱えており、第3次産業有業者割合が高いのが特徴です。産業面では、京葉工業地域による工業生産と、全国有数の農業産出額を両立させており、面積が全国平均に近い中で、これほど多角的に高い指標を示す県は全国的にも珍しい存在です。
問10	答え 2 東京国際空港（羽田空港）	東京国際空港（羽田空港）は、東京都心へのアクセスが非常に良く、日本の国内航空網におけるハブ（拠点）空港として機能しています。統計上の旅客輸送数では、新千歳（札幌）―羽田間や福岡―羽田間などは世界でもトップクラスの利用者数を誇ります。成田国際空港は主に国際線の拠点としての役割が強く、中部や大阪（伊丹）などの地方拠点空港と比較しても、羽田空港の国内線輸送規模は突出しています。
問11	答え 1 周辺の住宅地域から、多くの人々が仕事や学びのために通勤・通学してくるため。	大都市の都心部には、企業の本社や官公庁、大規模な商業施設が集中しています。そのため、周辺の「ベッドタウン」と呼ばれる住宅地域から、多くの人々が通勤や通学のために流入します。その結果、昼間の人口が居住している夜間の人口よりも多くなり、昼夜間人口比率が高くなります。
問12	答え 3 平地での出荷が少なくなる夏から秋にかけて出荷することで、高い価格で販売できるから。	本来、野菜の多くは特定の季節に収穫が集中しますが、標高の高い涼しい気候を利用してあえて収穫時期を遅らせる「抑制栽培」を行うことで、供給が不足する夏場に市場へ出荷することが可能になります。これにより、他の産地との競合を避け、有利な価格で取引することができます。